

イヌビワ

[木本] 《嗜好》



葉の基部が見分けのポイント。



果実は黒紫色に熟す。

区別のポイント

葉の基部は急に狭まって心形や円形になるのが特徴。枝を傷つけると白い液を出す。果実は食べられる。低地で普通に見られる。

形態 落葉低木。高さ3～5m。

分布 本州（関東以西）・四国・九州・沖縄

名前の由来 果実がビワに似るが小型で食味も劣っていることから。

葉 〈全体〉側脈5～6対。葉を取るとき柄基部から白乳液が出る。

〈付き方〉螺旋状に付く。

〈葉柄〉1～4cm。

〈基部〉心形・円形まれに鈍形。

〈葉先〉鋭尖頭。

〈縁〉全縁。

備考

出典 1, 14